

タイプ別とは

残された食べる機能に対応したを食事形態

原因疾患別に①大きさ、②硬さ、③まとまり、④送り込み で食事形態を整理し、その人の残された食べる機能レベルを次のタイプに分類しました。

★タイプ1★ かむ応援食

～ 噛む力がやや弱い人

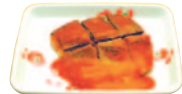
大きさ(食材: 2 cm、容量:15cc)、咀嚼回数(25回)



★タイプ2★ つぶす応援食

～ 噛む力が弱く、食塊する力もやや弱い人

大きさ(食材: 1 cm、容量:10cc)、咀嚼回数(20回)



★タイプ3★ まとめる応援食

～ 噛む力がほとんど無く、食塊にして喉に送り込む力が弱い人。

大きさ(食材:2mmと5mmの混合(*1)、容量:7cc)、咀嚼回数(15～10回)



★タイプ4★ 飲み込む応援食

～ 噛む力、食塊する力もほとんど無く、飲み込む力もかなり低下している人

大きさ(食材:2mm、容量:5cc)、咀嚼回数(10～5回)



注1) *1は、咀嚼を促す目的で混合し、混合比率は身体状況に合わせて変えます。

注2) 容量は、捕食する時の量です。